

アドラー心理学が身体化したカウンセラーを

野田俊作（大阪）

要旨

キーワード：

大阪では、3年ぶりに、アドラー心理学カウンセラー養成講座が開催された。3年も開催しなかったのは、私の中で、カウンセラー養成についての哲学が変化したからである。

アドラー心理学のカウンセリングでは、いわゆる横の関係の達成を援助するために、積極的に助言をおこなう。その際、カウンセラーがすでにみずからの実生活において横の関係を達成していないとすれば、助言という行為自体が偽善に陥ってしまう。横の関係は、単に頭で理解されるべきものではなく、行為として実現されるべきものである。それは、言うはやさしくして、行うは至難である。実際、残念なことに、若干のアドレリアンは、口では横の関係を唱えながら、その実、強烈な縦の関係を作り出している。

これについて、指導者としての責任を痛感した結果、私の責任下にある大阪の養成講座においては、受講資格をいくらか制限することに踏み切ったのである。すなわち、基礎的な訓練を受けた後、ある程度の期間、実生活においてアドラー心理学を実践して、それが生活法として定着した人でなければ、カウンセラー養成講座の受講を認めないことにした。これは、カウンセラー養成を、純粹に技法の実習中心のものに改組することを可能にした。理論とその身体化は、ほぼなしとげられているとみなしてよいからである。

その結果、受講資格を満たす人の数が激減し、講座の開催が不可能な状態が続いたのである。しかし、ようやく受講資格を満たす人々が十分数に達したので、講座開催に漕ぎつけることができた。講座は開催されたが、講座終了時にカウンセラーの資格を認定することはしていない。カウンセラーの資格認定を受けるためには、さらに数例の事例についてスーパーヴィジョンを要求しているからである。すでに心理療法士養成講座については、多数例についての厳密なスーパーヴィジョンを中心とする新課程が稼働して、若干名の心理療法士が誕生しようとしている。今また、新しいカリキュラムによるカウンセラーが誕生しようとしているのである。

このような、厳密な資格審査と実習中心カリキュラムによる新しい養成課程は、アドラー心理学の普及速度をあきらかに低下させるであろう。そのようなデメリットにもかかわらず、それは日本のアドラー心理学の臨床的水準を一定以上に保つうえで、量り知れないメリットをもたらすと、私は信じている。

更新履歴

2012年6月1日 アドレリアン掲載号より転載